「SciTS×ABD読書会」

～Summary, “Enhancing the Effectiveness of Team Science” (Nancy J. Cooke, et al, 2015) を読む～

対象：SciTS（チームサイエンスの科学）に関心がある方

日時：2018年12月14日（金）13:30～17:30（開場 13:00）

13:30-13:45	開催趣旨の説明
13:45-15:05	招待講演 「科学という方法への構え」　宮野公樹 「ＳＴＳ事始め－科学技術の社会的研究入門」　福島真人 「日本の大学における研究組織構造に関する実証分析」　柴山創太郎 「組織コミュニケーション学におけるチームサイエンスの可能性と課題」　山口生史
15:05-15:15	ABD読書会説明
15:15-16:45	ABD読書会
16:45-17:25	質疑応答・パネルディスカッション
17:25-17:30	閉会挨拶
17:30-18:00	ネットワーキング・自由参加

会場：科学技術振興機構（JST）東京本部別館 2階会議室A-1

千代田区五番町７K’s五番町（*https://www.jst.go.jp/koutsu_map2.html*）

お申込：*https://form.jst.go.jp/enquetes/SciTS_ABD_20181214*

お申込締切日：2018年12月12日（水）

詳細案内： チームサイエンスコモンズHP

（*https://www.teamsciencecommons.com/*）

https://www.teamsciencecommons.com/

参加費：無料

定員：約30名

主催：JSTプログラム・マネージャー育成・活躍推進プログラム　2017年度採択プロジェクト　「質問する学び場ハテナソンの研究・開発および実装試験」

共催：任意団体チームサイエンスコモンズ（TSC）

後援：JST イノベーション人材育成室

お問い合わせ先：teamsciencecommons.office@gmail.com

開催趣旨

「チームサイエンスの科学（Science of Team Science/SciTS）」という学術分野があるのをご存知ですか？「チームサイエンス（Team Science：TS）」は、科学者がチームベースで行う研究活動（共同研究）のことです。ビッグサイエンス等と並び、今日の科学文化のトレンドのひとつとなっています。

「SciTS」は、TSに対する研究・支援・人材育成・文化形成を行う研究教育分野です。2006年に米国に生まれ、科学研究の1分野として認識されています。このたび、ABD読書法*で文献を輪読、議論する「SciTS×ABD（アクティブブックダイアローグ®）読書会」を企画しました。 SciTSを深く知り、語れるひとが増えれば、幸いです。

さらに、キックオフとなる今回は、記念イベントとして新進気鋭の4名の先生に、学際の視点、科学とラボの関係の視点、研究チームの視点からご講演いただきます。

ご参加いただくのに必要なものは英和辞典だけですので、どうぞお気軽にご参加ください！

*ABD読書法とは…「短時間で読みたい本を読むことができる全く新しい読書手法」です.
（http://www.abd-abd.com/）

登壇者（登壇順）

京都大学学際融合教育研究推進センター　宮野公樹 准教授

専門：学問論、大学論、異分野融合（かつては金属組織学、ナノテクノロジー）。2011年４月～2014年9月まで総長学事補佐、2011年10月～2014年9月まで文部科学省学術調査官を兼任。現在、国際高等研究所客員研究員も兼任する他、日本触覚学会特別顧問。著書：研究を深める5つの問い（講談社ブルーバックス）他。共著：反大学改革論（ナカニシヤ出版）。

東京大学大学院・総合文化研究科　福島真人　教授

ポストゲノム生物学, 計算機科学, 地球科学, 建築学といった事例を基に科学技術実践と文化・社会・思想的な文脈が交差する領域を研究. 近年では科学とアート／デザインの相互交流等にも関心がある.『暗黙知の解剖』(金子書房)『学習の生態学』『真理の工場』(東大出版)等

ルンド大学 経営管理学部　柴山創太郎　上級講師

2008年東京大学大学院 薬学系研究科修了、博士（薬学）。2010年University of New Englandにて修士（経済学）を取得。トリノ大学客員研究員、文部科学省 科学技術研究所 国際客員研究官、東京大学大学院 工学系研究科 特任准教授、東京大学大学院 薬学系研究科 特任准教授などを経て、2017年からルンド大学 経営管理学部　上級講師。

明治大学情報コミュニケーション学部　山口生史 専任教授

国際基督教大学 行政学研究科修了、博士（学術）。現在の専門分野は組織行動学および組織コミュニケーション論。近年、介護コミュニケーションの研究にも取り組んでいる。日本コミュニケーション学会優秀論文賞（2018）と国際学会のアジアパシフィック大会でのBest Paper Award (2012, 2113)を受賞。

対象文献

National Research Council. (2015). **Summary**, Enhancing the Effectiveness of Team Science. Committee on the Science of Team Science, N.J. Cooke and M.L. Hilton, Editors. Board on Behavioral, Cognitive, and Sensory Sciences, Division of Behavioral and Social Sciences and Education. **1-16**, Washington, DC: The National Academies Press. (https://s3.wp.wsu.edu/uploads/sites/618/2015/11/Enhancing-the-Effectiveness-of-Team-Science-2015.pdf)

「チームサイエンス研究会」の問題意識

1970 年代以降、科学者コミュニティにおいて科学技術と社会の関係に対する認識が深化するにつれ、近代科学がパラダイムシフトの時期にあるという問題意識が高まりを見せた。その結果、**「科学と科学者の在り方」に関する様々な概念**（学際融合研究、トランスディシプリナリー研究、トランスレーショナルサイエンス、オープンサイエンス、チームサイエンス、コンバージェンスなど）が仮定された。2000 年以降、これらの概念が次々と世界各地の科学技術の政策・施策・研究教育の現場に導入され、科学と科学者に関する具体的な制度や資源フロー、評価指標などを方向づけた。そうした流れの中、「科学と科学者の在り方」を巡る諸概念を有機的に結びつけた視点をもち、政策・施策・研究教育事業間の関連性と有効性を検討・促進することはますます重要になっている。

チームサイエンス（Team Science：TS）はビッグサイエンスやオープンサイエンスとならぶ、科学と科学者の在り方にかかる新概念である。科学研究が複数研究者による共同（チーム）での営みを基本形とすることに立脚している。**チームサイエンスの科学（Science of Team Science：SciTS）**は、チームサイエンスの在り方を実証的に検討する科学研究の一分野で、2006 年にアメリカにて発足した。SciTS の科学者は、政策科学、心理学、経営学などの人文・社会科学分野と、医学、地球環境学、生物学、物理学、数学、情報工学などの自然科学分野との双方に存在する。SciTS は、チーム医療分野において顕著なように、人文・社会科学系研究者が自然科学の発展または自然科学者のエンパワーメントに主体的に貢献できることが実証・可視化されている分野である。

チームサイエンス研究会（以下、本研究会）は 2016 年 8 月より「日本における知の共創と社会実装」と「それに応える科学と科学者ならびに関連政策・施策・研究教育事業の在り方」を問題意識に調査を行い、次の結論／仮説を得た：① SciTS 導入は研究室単位などの縦割り構造からの脱却、エビデンスに基づく効果的な研究支援システム構築の具現化、ひいては日本の科学研究力の向上に有効である。② SciTS 導入は人文・社会科学と自然科学とによる知の共創と社会実装を促進するために有効である。③ 日本における SciTS 導入の検討にあたっては、ステークホルダーが学際融合研究やオープンサイエンスなどの諸概念と関連政策・施策・研究教育事業等との関係性を理解し共有することが必要である。

そこで本研究会は、SciTS のステークホルダー、すなわち SciTS を知る・語れる研究者、関係者を増やすことを目的として、関連文献の輪読と議論を主活動にもつ**「SciTS × ABD（アクティブブックダイアローグ®）読書会」**を企画することとし、その**キックオフ記念イベント**（主催：科学技術振興機構（JST）プログラムマネージャー育成・活躍推進プログラムのプロジェクト「質問する学び場ハテナソンの研究開発および実装試験」、後援：JST イノベーション人材育成室）を別紙詳細のとおり 2018 年 12 月 14 日（金）、科学技術振興機構（JST）東京別館 2 階会議室にて開催することとした。

みなさまのご参加を心よりお待ちしております。